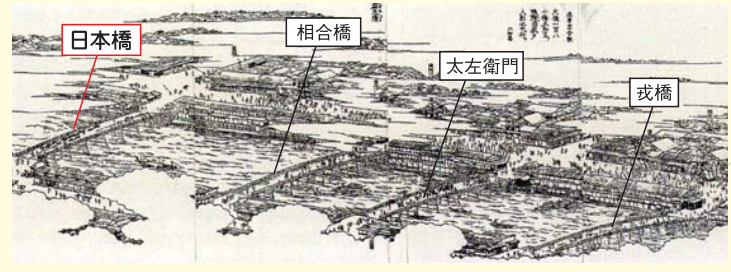




日本橋温故知新物語

1 何故日本橋と言われているの？

元々は長町(ながまち)と呼ばれていたんだよ。では何故、日本橋と言われているか調べてみよう。どうやら、橋の名前から付いたみたい。地図を確認してみると、右から、戎橋、太左衛門橋、相愛橋、日本橋。二十八二年、安井道頓・安井道卜(ごうぼく)、安藤藤次らが私財を運河開削に着工して、二八十五年に完成したんだって。



2 じゃあ!! 歴史で振り返ってみよう。

日本橋は、ずっとずっと昔、宿場町だったんだよ。今でも、裏通りに「旅館」という看板があるよ。その後、古本屋さんの町として、多くの学生が日本橋にやって来たんだよ!! パーツやラジオ部品が売られるようになったのは、その後。

明治時代に大阪発の五階建て高層建築「眺望閣」が建ち、物珍しさもあって五階、五階と親しまれ眺望閣の周りに露天が集まって今の五階百貨店が出来たんだって。眺望閣がなくなった今でも、そこには、掘り出し物がいっぱいだよ。是非、一度行ってみてね。



いざ子ども早く大和へ 大伴の御津の浜松待ち恋いぬらむ (去來子等 早日本邊 大伴乃御津乃 濱松待戀奴良武)

万葉集第六十三番 山上憶良の歌である。憶良が唐に渡っていた時に國を思って「さあ人々よ、早く大和へ行こう、きっと今頃は 大伴の御津の濱松が我々を待ちこがれているだろう」と歌ったものである。この時の大和は日本のことをさしている。御津とは大阪湾のことを指し、難波潟、難波津、難波門、御津、名呉乃海と呼ばれていた。

以前、阪神高速恵美須町付近に架けられていた橋は名呉橋と呼ばれ、堀筋を北上した西側には三津寺が残り、難波という地名も残っている。旧町名でも、今宮村は以前、津江村と呼ばれていた。このあたりが万葉の頃は日本の玄関口であったのである。又、日本橋の東、高津宮辺りには上大和橋、下大和橋という名の二本の橋が架っていた。まさに万葉の時代より大和=日本と呼ばれていた名ごりであろう。

郷土史家 井上 猛

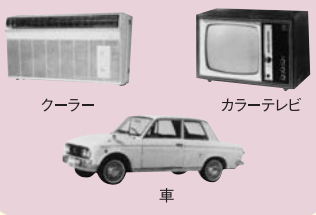
電気のみち日本橋



三種の神器



新三種の神器



3 ちょっと、懐かしい電化製品を紹介しよう。皆は、見たことがあるかなあ？

それ以外にも、たくさん皆に愛される電化製品が日本橋でんでんタウンには、溢れていたんだよ。ウォークマン・ウィプロ・パソコン・CDプレーヤー・ビデオデッキなど。家電製品の黄金時代の幕開けだね!! いい品、安く!! 今でも多くの人でんでんタウンが愛されている理由だね。

4 色々教えてくれてありがとう。今日は、ストリートフェスタだよ。僕たちも今の日本橋を楽しもう!! 行ってきま〜す。

今の日本橋ってどんなまち?!

日本橋は、いつの時代も趣味性の非常に高いまちかもしれないねえ。自作のパソコン、ロボット、フィギュア、鉄道模型など、最先端の趣味のまちって言ったほうがいいのかもね!! でも、少し心配な事もあるんだよあ...。最近、海賊版DVDやコピー商品が売られているのが目立っている。観ない、買わない、これは、皆にも絶対を守って欲しい! 日本橋に行ったら探していた物が絶対みつかる!! そんなわくわく感を持つことが出来る宝箱のようなまちであってほしいねえ。

